

口は健康のもと Vol.169

歯周病と糖尿病（2）

厚生労働省の患者調査（2015年）によると、糖尿病の患者数は316万6,000人となり、前回（2011年）調査の270万から46万6,000人増えて、過去最高となったそうです。

歯周病と糖尿病の関係については前回も触れましたが、糖尿病患者は歯周病になりやすく、血糖値がコントロールされていない場合には、歯周病がより悪化します。最近、歯周病と糖尿病の間の双方向性が注目されています。つまり、歯周病の治療の結果、一部の糖尿病は病状が改善することがわかってきました。感染症があると血糖値を下げるインスリンの作用が弱められ、血糖値が下がりにくくなります。抗生物質などで治せる一時的な感染症とは異なり、歯周病は慢性の感染症であるため、歯周病を治療しない限り、糖尿病の血糖コントロールは難しい可能性があるといえます。

しかしながら、日本歯周病学会発刊の「糖尿病患者に対する歯周病治療ガイドライン改訂第2版（2014）」では、「糖尿病の病態や歯周病の治療が多岐にわたることから、すべての糖尿病にあてはまるわけではない」と記されています。今後、歯科医学では歯周病治療の糖尿病に対する有効性を詳しく検証していく必要があります。



奥羽大学歯学部附属病院

総合歯科 講師 高橋 昌宏

